

東京電機大学校友会

千葉県支部だより

第7号

平成16年1月29日

事務局
千葉市稲毛区緑町 1-5-8
高率電設(株)内
TEL 043-242-1539
FAX 043-242-1884

■七号発刊に当り

支部長 小川 重一

東京電機大学校友会千葉県支部会員の皆様お元気ですか。支部の事業も皆様のお陰で順調に推移致して居ります。

私もお陰さまで72才(気持ちは80代)の現役社長を務めて居りますが、最近は一年の過ぎるのが特に早く感じられます。まだあれこれした事が有りますが、そうかといって夜遅くまででは翌日に影響をおよぼします。朝は5時15分の起床まで熟睡したいのですが、なかなかそれが出来ません。ここ何年間は目が覚めたらよくNHKのラジオ深夜便を聴いておられます。特に朝の3時からのコーナーでは戦後覚えた歌が解説つきですばらしいです。そしてリスナーの喜びの手紙等が紹介されます。4時からは「心の時代」これがなかなかよいです。時々アンコールで再放送されます。11月中旬電機学校同窓(九重会)と50年ぶりで房総1泊旅行をしました。快晴に恵まれ皆満足の様でありました。其の中の1人が「俺もラジオ深夜便を聞いているよ」と、互いにその様な年頃になったと改めて思っています。

第43回衆院総選挙、11月9日投票、即日開票され小泉政権が続投と成りました。これから公約のマニフェストをどの様に実行するか、国民の監視の目は鋭く光って行く事でしょう。ある新聞に故岸信介元首相は「岸信介発言録」の中で20年余り前に「中選挙区よりも小選挙区が優れている最大の理由は、野党を強くする」ことだと言っている。小選挙区に変えた当初は、与党つまり自民党が圧倒的に強いが、やがて現職優先のために自民党で公認

されない人材が野党に流れて、力が均衡するという読みであると言っていました。思い当ることもあります。

ところで校友会本部の新役員に理事長に矢野善治氏、常務理事に高久廣毅氏、事務局局長に浅見光男氏がそれぞれ就任致しました。

尚千葉県支部総会は平成16年6月12日(土)になりました。役員変更の時期でも有り、ご協力頂ける会員の方が居られましたら、積極的に申し出て頂ければ幸いです。尚お知り合いでご推薦できる会員がいらっしゃいましたらご一報下さい。宜しくお願い申し上げます。

また100周年行事については、目標が達成出来そうです。宜しくご協力の程お願い申し上げます。

支部についてご意見、ご要望御座いましたらご一報ください。お待ち致しております。

■千葉県支部会員の皆様へ

(社)東京電機大学校友会 理事長 矢野 善治

東京電機大学校友会千葉県支部の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は校友会活動及び支部活動にご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございます。

私は、この度、伝統ある社団法人東京電機大学校友会の理事長の大役を仰せつかりました。大変光栄であると共に、その責任の重大さを痛感しております。校友会の発展の為に微力ではありますが、全力を尽くす所存でありますので、千葉県支部の皆様のご理解、ご

協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、21世紀を迎えた今日、社会は科学技術の急速な発展、学術研究の高度化・国際化・高度情報化社会へ進展、高齢化等かつて私どもが経験をしたことのない激動の時代を迎えております。さらに環境問題という大きな危機に直面し、緊急な対応が求められております。

学園は、こうした時代の変化に対応し、社会の要請に添えていくために、個性豊かな活力にあふれた人材、多様な知の創出と創造力にあふれた人材、新しい価値を多様な分野で創造できる人材の育成を目指しており、創立100周年を機に、学園の伝統と特色を生かしつつ、このような人材を社会に送り出すと共に、社会の学術・文化の中心として機能し得るよう、教育・研究体制の充実を図り教育機関としての使命を果たそうとしております。

このような21世紀の教育活動を支えていくために、学園は、創立100周年を迎えるにあたり、大学および中学校・高等学校の教育研究施設設備の整備充実事業、神田キャンパスの再整備事業、大学院の充実強化と研究教育拠点の形成並びに社会人・夜間教育体制の整備事業、セミナーハウスの建設事業、卒業生・企業との連携強化の推進事業などの事業を計画しております。

これらの事業を推進するために、学園は、総事業費として100億円の予算(自己資金・長期借入金86億円、寄付募金16億円)を組む、事業展開を進めてまいります。

校友会といたしましては、学園の発展のために協力を惜しんではならないと感じ、全国の各支部を始め、職域電機会、クラス会等を通じ、募金活動を展開していく所存でございます。卒業生の皆様には寄付募金活動に、絶大なご協力を賜らなければなりません。何

卒、校友の力を結束し、学園発展の為に、応援をよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻下さいますようお願い申し上げますと共に、千葉県支部の益々のご発展をご祈念申し上げます。

■風力発電所見学会の報告

支部長補佐 松本 宏

校友会千葉県支部は商工懇話会と合同で10月25日(土)、銚子地区の飯岡と屏風ヶ浦の2風力発電所を見学しました。そこで今回予定に入っていなかったが、特別に試運転中の2基があると云うことで行った所、順調に稼働していた風車は、なんと明電舎のものであった。この見学会は千葉県支部が毎年行っている行事の一環であります。唯今回は匠懇和会副会長より、懇和会でも計画しているとの情報があり、早速校友会事務局に調整して頂き、校友会千葉県支部として、初めての合同見学会となりました。商工懇話会31名、千葉県支部14名、事務局1名の合計46名、講師には都環境専門の千葉大学の佐藤先生、見学会内はグリーンエネルギー技術部長の渡部さんと九電工業営業部長の宮内さん、そして千葉大生2名の応援を頂き、事務局手配の大型観光バスにて、総勢51名で出発しました。車中、佐藤先生による風力発電の概要は「風せんべい」(NPO販売：先生の差入れ)をほうばりながら、拝聴しました。最初は飯岡発電所(850kw×5基、2000世帯をカバー)の設備、始めかみの田圃道を寒風に吹かれ乍らの歩行は結構ハードでした。想像していた以上に大きく、風車の高さ(地上より風車先端)は91mあり、5m/sの風速で力強く発電していました。停止させ詳細説明を受けました。その

後昼食は海の幸を頂き、屏風ヶ浦発電所(1、500kw×2基)へ、見学終了後は、銚子京成ホテルで記念写真を撮影。太平洋を望む露天風呂で一汗流し、ほっと一息、懇親会は、疲れも時間も忘れて、活発な意見、提案も飛び交い、大いに盛り上げました。帰りには佐藤先生の協力の依頼のあった、風せんべい、を買い求め完了で感激した関係者は、東京電機大学万才“とそのこち良い声に見送られ乍ら、一行は銚子を後にしました。

この風力発電は風まかせであり、設置場所、効率面でも多くの課題や改善の余地はあるものの、世界は2020年には全電力の12%を、日本でも2010年には3,000Mwの発電をNPO、NEEDOが目標にしている地球環境に優しい、クリーンエネルギーであります。時代に合った大変意義深く、そしてとても楽しい見学会でありました。関係各位の方々に御礼と感謝を込めての報告とさせていただきます。尚、この見学会の案内は総会出席者に出させて頂きました。高率電設(社長)当会小川支部長)では京成みどり台駅前の自社駐車場に「小型風力と太陽光のハイブリット発電による街灯と防災通信電源」を設置、街の環境を二コメントとしてスタートしました。

この設備を12月4日千葉県電業協会の方々に見学させて頂きました。今後は県市町村をはじめ学校関係にも普及促進を呼びかけてゆくと、小川支部長が抱負を述べられていました。

■古式ゆかりの三山の七年祭り

支部幹事 葛西 信司

を願う産屋の祭りをを行う磯出祭の二つから成り立っています。「三山の祭りは後が先」といわれるのは、お礼の祭典を先にして、安産祈願の磯出式が後になっているためです。大祭前の九月には、二宮神社だけで小祭を行い、大祭当日は接待役で神輿を担げない三山地区の氏子(寅待会)連が町内を練り歩き大祭のムードを盛り上げます。

二日、夫役の二宮神社や妻役の子安神社(千葉市畑)、息子役の八王子神社(船橋市古和釜・時平神社(八千代市大和田)、産婆役の三代王神社(千葉市武石)、娘役の高津比咩神社(八千代市高津)、叔父役の菊田神社(習志野市津田沼(久々田)、叔母役の大原大宮神社(習志野市実粉)そして子守役の子守神社(千葉市幕張)の九神社の神輿が二宮神社近くに竹矢来が組まれ棧敷席が設けられた神揃場(かみそろいば)と呼ばれる広場に次々に到着。正午ごろから、前回の磯出祭の時間内に生まれた両男女(りょうごめ)の二人と約二百人の華やかで愛らしい子安神社の稚児行列があり、続いて古式どおりの順番で二宮神社に安産御礼の参拜、神輿ごとに拜殿内に昇殿します。午後七時半からは、安産祈願をする磯出祭のために、二宮、子安、三代王、子守神社の神輿が、かつて千葉市幕張の磯であったところまで約7キロメートルの道程を出かけ、潮の満干に合わせた三日の午前三時四十分ごろ、竹矢来が組まれた中で式典を行います。前回の磯出祭の時間内に生まれた七歳の男女の稚児が神主の祝詞の後でおのおの持っていた蛤を交換、儀式後、二宮神社の神輿と子安神社の神輿が幕張の旧国道で、派手なもみ合いを見せて七時間の別れを惜しみます。二宮神社の神輿は「のあと」畑と儀式「火の口台神事」などを行

井地区をねり歩き夕方再び三山へ。二日の午後七時半に出発してから一昼夜を過ぎた午後8時ごろ、神輿はようやく二宮神社の境内へ。それでもなお七時間の別れを惜しむ担ぎ手は神輿を収めず大観衆の中もみ続け、午後九時過ぎようやく二日間の祭りに幕を下ろします。

この祭りが始まったのは、約五百年前の文安二年(1445年)。その年、馬加城(まかはりじょう)城主・千葉康胤の奥方が懐妊しましたが、十ヶ月になっても出産の兆候がないため、三山の二宮神社、畑の子安神社、馬加の子守神社、武石の三代王神社の神主たちに、磯辺の地で安産祈願をさせたといえます。するとまもなく男子が無事誕生したので、康胤と家臣、領民は大いに喜び、大願成就のあかつきには、盛大なお礼の祭事をするとの祈願したことから、三山の二宮神社で安産御礼の大祭を行ったことが始まりとなり、当初は毎年行われていました。そして享保二年からは、丑(うし)年と未(ひつじ)年の七年目ことになったことから三山の七年祭りと呼ばれるようになったようです。

地元では見物のための棧敷を組んで親戚知人を招待する家や、神輿などの休憩所になる家では女性は料理を作ったり、接待で祭りを見られないほどの忙しさ。でもそれが料理の作り方や人との付き合いまで母親から娘や嫁に受け継がれる機会にもなっているのだそうです。祭りが終わると次回のためにお金を積み立てる準備を始める家も多いとのこと。三山の七年祭りはこうして地元の人々の活力にもなっているようです。ソーラーシステムと風力発電の為の風速測定器が屋根に見える小川支部長の住まいは二宮神社の近くにあり、支部長宅でも沿道の家々とともに提燈を飾って祭りを盛り上げていました。次回は6年後

の十一月、一度見に来てはいかがですか?

■IHの道を歩んだ45年の変遷

支部幹事 島山 忠之

最近家電販売店に向くと電気炊飯器は殆どIH方式(Induction Heating: 誘導加熱)に変わっているのに驚き且つ納得する。これは美味しいご飯へのこだわりと任意の高周波を発生させるインバータとマイコンチップが安価に生産出来る時代背景の賜である。

IH加熱方式とは鍋の周辺に配置されたコイルに高周波電流を流し、発生磁束が鍋に渦電流を流すことにより発熱する原理を利用したものであり、その特徴は非常に高いエネルギー密度・応答性・加熱効率が容易に得られ、美味しさを追求したご飯を炊く複雑な熱サイクルの再現には理想的な方法である。

此のIH技術は約85年前に工業用として開発され、現在は押し出し製品の代表格であるアルミサッシ・銅、銅合金の押し出し棒材、管材・電線管の製造・圧延・焼き入れ・鍛造・焼鈍・等の加熱応用に広く利用されている。この原理を用いた溶解炉は、運転、休止が簡単であらゆる金属の溶解が可能な通称ルツボ炉、これを真空容器内に収めた真空溶解炉、連続操業を前提とする変圧器の二次巻き線を溶湯で構成し、そこへ与えたエネルギーを上部湯だまりに伝達させて溶解を行う溝型誘導炉、等が世界的に広く利用されている。

大学3年夏休みの直前、運見教授に呼ばれて分厚い誘導炉の洋書を勉強してみないかと渡されて興味を持ち、卒論で誘導炉を選択し、太田、磯道両級友の参加を得て20KWの亜鉛溶解用 Ajax Water Tubeの小型溝型炉を、大学の機械室と赤見製作所の工場で作作したが、私のIH人生の始まりとなった。試運転の段

階になり、工場にお願いし亜鉛溶湯をこし準備頂き炉内に満たし、スイッチを入れた瞬間にバリバリと轟音と共に溶湯が白煙と共に周辺に飛散、あわててスイッチを切り事なきを得たが、ピンチ効果の恐ろしさを体験し、後々の業務の良い教訓となった。

昭和32年電気炉メーカーに就職、真空管式高周波発振器と加熱、溶解応用設備の設計に従事、当時全盛のトランジスタラジオの素材のゲルマニウムの帯域精製・シリコンの単結晶引き上げ、各種金属の空中浮遊溶解、新しい樹脂シート熱処理の為にカレンダーロールの均熱化、抵抗加熱式押し出し機のーH化等様々多くの面白い経験をする機会に恵まれた。

昭和38年当時の玉川機械金属(株)でーHのパイオニアで常に大型最新設備の先導役を果たしている米国 Ajax Magnethermic社との合併会社設立計画があり、同社に招かれ、2年間の準備期間を経て日本アジャックス社が設立された。

当時、高い電力密度が可能な磁気飽和領域で第三高調波を効率よく取り出す3倍周波ルツボ炉。鉄鋼メーカーの連続メッキラインへ従来の抵抗加熱式鉄ポットに代わり不純物発生のない亜鉛溶湯2000トンレベルのーHポット。電線メーカー等での Dip Forming Systemと呼ばれるドラム型薄型溶解炉と還元雰囲気中で連通するルツボ炉底部から直径8m/mの母材を上部へ高速通過させ16m/mに生長(体積4倍)、圧延冷却後75%を製品として回収する無酸素銅の連続生産設備等の普及が急速に進んだ。

自動車用ガルバニール鋼板・・・平成2年NKK福山の連続メッキラインのーHポット直上に1000kw10khz基のーHを設置し、毎分100mで進行するメッキ鋼板を140℃昇温させ、メッキ層を亜鉛と鉄の合金化層

に変化させたガルバニール鋼板として、耐蝕性、溶接性が著しく向上する事から自動車用鋼板の主流となり、鉄鋼メーカー各工場のメッキラインへの普及が急速に進み、更に高品質薄板軽量化に伴い平成9年にはユニット電力27000kw50khzが実用化されている。

日本のコイン：平成8年春、大蔵省造幣局で近代化の一環として、大阪、広島両造幣局で従来の溶解鑄造設備を廃棄し、広島造幣局に2800Kw500Hz4トン炉2式と連続鑄造機の大規模導入による一局集中生産が開始され、平成10年の長野オリンピック記念銀貨を始め、現在の50円以上の硬貨が2シフト操業で生産されている。

製鉄所上工程：製鉄所は通常高炉2本が原則のところ一本とせざるを得ない工場に於いては製鋼工場への連続溶湯供給に不都合が生じるため大量の鉄スクラップ溶解と高炉溶銑の昇温に依る転炉への負荷軽減と溶銑の安定供給を目的とし平成10年9月大手鉄鋼メーカーY製鉄所に薄型炉の応用である発熱部4500kw6基を備えた合計27000kw貯銑炉容量2200Tonの世界最大のスーパーヒーター設備がY社の協働により稼働が開始され、約1.5年の見極め運転の実績を経て平成12年3月の鉄鋼協会講演会で総合効率85%の達成と成功が報告され、卒論から通算45年のーH人生を後輩に委ねる良きサインとなった。

連見先生の思い出：先の2年間の合併会社設立準備期間中、難関の一つに外貨導入等政府認可取得の必要性があり、連見先生が当時田中角栄大蔵大臣と懇意であったことから先生と堀口専務(連見先生の神戸高等工時代)の教え子)が大臣を訪問し快く了解を得た事を始め、人材の確保、委託研究や研究生の受け入れ等多方面でお世話になり、紙面の都合

で詳述出来ませんが、先生の思い出とーH変遷の一端を紹介させて頂きました。

■続・あしがれのヒマラヤ・トレッキング

副支部長 田中 豊明

一日目になりサイト前の民家の子供達と遊び、写真を撮った。(後日同地へ行く知人に、写真を託したら両親と当人が、大変喜んでくれた、とのこと)

今日はナムチエへ行く、モンジョを出て、登り下りしていくと、両側を岩山に挟まれた所に、サガルマータ国立公園の管理事務所があった、街道の閑所だ、銃を持った番兵がいる。ここでトレッキングパーミットのチェックを受ける。

ドワードウ・コシとポータ・コシが合流する二股の先で吊り橋を渡り、ナムチエまで高度差六百メートルの急な登りにかかる。ジグザグ道を、すれ違うヤクの隊列を、山側によけ、道をゆずりながら、ゆつくり登って行く。尾根の上に出たところで、稍越しにローツエの山稜とエベレストが見えた。暫し、世界最高峰を、感激して見入る。

ここから、なだらかな登りで、左手のポータ・コシの深い谷の向うにコンテ・リ(6187m)が白い峰を連ねている。やがて、前方高くに、石造りの白壁の家々が馬蹄形の山腹に長屋のように密集した、ナムチエ・バザールについて。

井上さんが、村入口のカニ(仏塔門)の手前で待っていて、一緒に村にはいった。ナムチエは、古くからチベット交易の中継地として栄えた村で、シエルパ族の故郷だ。今日は土曜日、毎週土曜に開かれる、チベット・ザールの日で、ストゥーパー(仏舍利

塔)のある広場は、賑やかだ。ストーパーの所で、休んで居るヤクは、六千メートルの峠を超えて、チベットから荷物を運んで来たとのこと。

■続・あしがれのヒマラヤ・トレッキング

副支部長 田中 豊明

サダーのアン・ニマ・シエルパの生家の庭がテント場だ、ここで昼食を済ませた。午後ナムチエの目抜き通りを、ひとまわり散策した。露天の土産物屋が、カウベル・トピー帽、ククリ刀、ポシェット、セーター、玉石の首飾り、指輪、数物、等が所狭しと並べてあり、しつように、客を呼び込んでいます。

商店、食堂、ロッジ、銀行、郵便局、駐在所学校も、みんな粗末だが、立派な村だ。夜には、電気が付き、近くのディスコはイルミネーションでキラキラ、ドンチャカうるさいが、テントはローソクだ。今日は高所順応の停滞日、テジ君にお弁当を持たせ、ハイキングに出かける。

ホテル・エベレスト・ビューのある丘に登った。エベレスト(8848m)ローツエ(8511m)ローツエ・ヤール(8383m)又ブツエ(7879m)アマ・ダブラム(母の首飾り6856m)カネテガ(6779m)タムセルク(6608m)タウエツエ(6779m)クーンピラ(5761m)コンテ・リ(6168m)ここは三九五九メートルのヒマラヤの大展望台だ。草原で昼食、ゆつくりと大パノラマを、たんのうした。

カムジュンの集落に向かう、痩せた畑で家族総出で、ジャガイモ畑をしていた。クンデの集落を通り、今はヘリコプターしか使用していない、空港の滑走路(未舗装)を歩きナムチエに帰った。

富士山より高い所で、生活をしているシエルパ族は、ヒマラヤ登山隊の強力な助っ人だ。今日は、タンポチエに向かう、樹林帯を抜

きナムチエに帰った。

けた見晴らしの良い、渚木帯の路を、チンタラ・チンタラ、右手にタムセルク、カンテガ、その氷河を見、前方にアマ・ダブラム、エバレスト、ローツエ、又ブツエを見ながら。一旦川まで下り、吊り橋を渡り、五〇〇米以上の登り、登りに弱い、「田中さんビスタリ・ビスタリね」とサーダーは、立ち止まって待ってくれる。

タンポチエのキャンプ・サイト(3800m)は、タンポチエ・ゴンパ(ラマ教寺院の総本山)で、立派な本堂と宿坊があり、高僧始め修行僧百人位常住している。の草原、快適な所だ。

■読売東京理工専門学校の教育

電気技術学科 茂木仁博

本学科は短大ないし高専程度の学力と実力を備えた中堅技術者を養成し、あわせて健全な社会人としての資質を育成することを教育目標としています。

電気はご存じのように、現代社会には無くてはならないクリーンでコントロールしやすいエネルギーであり、いろいろな分野において、その重要性はさらに増してきています。しかし、その利用方法や取扱い方を誤れば人命や財産や経済に大きな災害を与える危険性を有しています。

そこで電気・情報通信・コンピュータなどを有効に安全に利用し、制御、保守、設計、工事、施工管理ができる電気技術者が必要となってきました。そのような時代のニーズにこたえられる電気技術者を専門学校の本学科は養成しています。短大とおおきく異なるところは、実験・実習時間が多く、一般教養科目が少ない点だと思つて。

また、国土交通省、経済産業省、総務省の各省国家資格養成、認定校となっており国家資格取得を柱に学びます。

この後、来た路を帰る。
ゾプキヨの逃走事件、ヤク・ステーキの中毒事件、不整脈事件、スタッフの話、便所事情満月の高峰を見た事、食べ物の事、子供達カトマンズでの事、建設現場のコンクリ打、土産物屋との遣り取り、ネパールの電気設備通信設備の事、タクシー運転手の事、ポカラの事、稲刈りの事、マチャプチャレ、アンナブルを見た事。

いろいろな事が、思いだされる、二〇日間
(養成校：卒業時取得)が同時に取得(経産

省)出来ることです。

それに伴い、認定電気工事従事者資格も取得できます。その他の資格では消防設備士甲種が2年次に受験可、全ての工事担任者の基礎科目免除(総務省)、1・2級電気工事施工管理技士は実務経験が1級は5年、2級は1年で受験可(国土交通省)となります。

そして、第2種電気工事士養成校ではありませんが、第1種電気工事士にも対応できる内容を行っております。

なお、在学中に第1種電気工事士、第2種電気主任技術者、消防設備士甲4種の国家試験対策授業も実施しています。

国家資格取得の大きなメリットは仕事が出る、就職に役立つ、自信と勇気が持てる、経済的な面にプラス、自分自身と会社の対外的評価のアップ、次へのステップになる、やる気が出る等があると考えます。

そして、資格取得の勉強を通して健全な社会人としての資質、注意深さ、協調性、大胆さ、集中力、判断力、物の扱い方、読解力、計算力、先を読む力、時間や物の大切さ、話を聞く姿勢等の育成(形成)も出来ると思つて。専門学校卒業生の活躍・電気業界の発展を心よりお祈りいたします。

■第33回千葉県支部通常総会報告

支部長補佐 松本宏

第33回通常総会を平成15年5月17日(土)、母校の千葉ニュータウンキャンパスにて総員70名の出席者で開催しました。小川支部長の挨拶に始まり、学園常務理事の宮本様に「学園の現況」をパソコンとプロジェクトで判り易く、説明して頂きました。議事に入り、平成14年度事業、決算、監査の各報告、そして平成15年度事業計画、予算、役員の変更(1

名増員)、並びに会則の1部変更と、総べてが順調に承認されました。引き続き、特別講演として「宇宙開発と地球観測」と題して、宇宙開発事業団の森山隆(本学卒業生)氏による貴重な講演会を一般公開にて開催しました。

NHK朝の連続ドラマ「まんてん」でお馴染みの演題とあつて、皆熱心に耳を傾け、質問も沢山出されました。引き続き会場を福田ホールに移して、懇親会を開催しました。ご来賓として学園常務理事宮本雅次様、校友会理事長横田等様、大学同窓会長近藤史生様、情報環境学部長中村尚五様をはじめ校友会関係の多数の方々のお出席を頂きました。横田理事長の挨拶に続き、校友会の浅見新事務局長に乾杯の御発声をお願いし、懇親会は和やかに進められ、無事終了しました。

尚、次回の総会は平成16年6月12日(土)、AM10時より同じく母校の千葉ニュータウンキャンパスにて実施。特別講演も一般公開にて計画。講師は母校教授の工学博士浜田晴夫先生、演題は「新しい立体音響技術とその展望」(詳細は工学情報「春号」御参照)

編集後記

松本武

平成十四年末にノーベル物理学賞と化学賞に二人の日本人が選ばれ、日本人の受賞者は十二名となりました。我が国の最先端技術や基礎理論は世界に冠たるものがあります。この反面、中高生の凶悪な犯罪が多くなっているため、教育基本法の改正が議論されています。何を今更かと思つていますが、十一月には総選挙が行われ、以前と変らない安定多数与党と小泉内閣で「日本丸」が船出しました。穏やかな航海とは行かないでしょう。改革も遅々として推まず、景気も良くなる要素がなく、暗い海へ沈んで行かなければ良いかと思つています。